

Sportsmedicine

Media of Communication for Sportsmedicine People Monthly

月刊スポーツメディスン12月号

176

Contents December, 2015

December Special

特集

前十字靱帯 再建術

手術件数3200件の実績から語る

1 20年間のACL再建術を振り返る 内山英司

2 ACL再建術を語る 内山英司

——術式の変遷、感染の低さ、新たな試み、早期退院、
課題と今後の抱負

Thoughts on Sports

門外漢スポーツ雑談(ぞうたん)

「アマチュア」と「素人」の周辺

今泉隆裕

Study Abroad II

連載 It's Now or Never. 最終回

アメリカ留学 その8 ~To be continued~

森本圭太

Basic Corrective Exercise

連載 ベーシック・コレクティブエクササイズ~正しいムーブメントの法則を知ろう!~

何をコレクト=修正すべきか?

——ムーブメントを評価する

倉持梨恵子、室伏由佳



Posture and Movement

連載 姿勢と運動学の観点からの障害評価・介入方法

Postural Restoration Institute®の考え方 30

姿勢と運動学の観点から 石井健太郎

——鼠径部痛症候群ケーススタディ(1)

Sports and Medicine

スポーツと医療の現場から考える

スポーツ環境とシーズンスポーツ 河崎賢三 33

Contribution

寄稿

速く泳ぐために【後編】 宮下充正

——反復スプリント・トレーニング

Sports & Law

基礎から学ぶ「スポーツと法」

リハビリ従事者の責任に関する法的検討 宮田義晃 42

Trainer's Message from USA

連載 アメリカのスポーツメディスン現場からのメッセージ

MLBでの肘・内側側副靱帯(UCL)損傷 阿部正道 46

——パート3: リハビリの現状

Physical Essay

からだのエッセイ「身体の森」 最終回

Grenier de Sante 山田ゆかり 50

Event 29、32、35 Books 41

December Special

前十字靱帯 再建術

手術件数 3200 件の実績から語る



172 号でアキレス腱断裂について、独自の術式を開発、大きな成果を挙げておられる内山英司先生に取材したが、今月は内山先生が圧倒的多数の手術件数を持つ前十字靱帯再建術について詳しく聞いた。手術件数が多いというのは、その手術を希望する患者さんの数が多いということである。それはなぜか。その詳細をあますところなく聞いた。完全伸展位で固定、感染防止策、できるだけ早い日常生活復帰。いろいろなポイントがあるが、そこに至る過程から、その考えの根本など、内山先生の ACL に対する姿勢をできるだけ詳しく紹介することができたと思う。多数の図とともに紹介する。

1 20 年間の ACL 再建術を振り返る 内山英司 P.2

2 ACL 再建術を語る 内山英司 P.5

—— 術式の変遷、感染の低さ、新たな試み、早期退院、課題と今後の抱負

し ACL を中心に手術治療で評価が得られないようであれば辞める覚悟でした。

関東労災病院では最初の2年間はトップアスリートの ACL 再建術はゼロでした。レクリエーションスポーツの人ばかりでした。

——意外ですね。

関東労災病院に勤務したのが1997年ですが、そこから3年くらいはトップアスリートは一人も受診されませんでした。スポーツ愛好家ばかり。

——それでも年間100件くらいは ACL 再建術は行っていた。

そうです。徐々にスポーツレベルが高い人の再建術も行われるようになり、2002年にスキーの皆川賢太郎さんが来て、ACL 再建術を行ったのですが、そのあたりから、レベルの高いアスリートが多く受診されるようになりました。

——以降、まさにトップレベルのアスリートが ACL 再建術はじめ治療に来るようになった。

た。

バレエの熊川哲也さんもそうですし、まさに日本を代表する選手が来るようになりました。バスケットボールの佐古賢一選手はじめソフトボール、アメリカンフットボール、アルペンスキー、スノーボード、バドミントン、サッカー（Jリーグ）など、オリンピック選手や日本代表選手はたくさん来しました。WJBL だけで20人くらいは ACL 再建術を行いました（それぞれの選手名は許可を得て掲載。以下同様）。

——トップアスリートだからと言って手術が変わることはないと思いますが、やはりトップアスリートは復帰意欲が異なる？

もちろん復帰意欲は違います。人生や生活を懸けていますから。

韓国代表選手も何人が手術しています。日本が韓国に勝てないときで、私はオリンピックの専任ドクターも務めていたので、復帰して活躍すると、やや複雑でした(笑)。スキーについても関東労災病院は日本ス

キー連盟の指定病院になったこともあって、一時期日本代表選手が多く受診していました。オリンピックの前はオリンピック出場をかけてがんばるので、かなり ACL 損傷できていました。

そのほかチームドクターとしては、横浜 F マリノス、富士通アメリカンフットボール、男子バスケットボール・ボッシュ、女子シャンソン・バスケットボール。また多くのチームから手術治療依頼を受けており、ほとんどの選手が競技復帰を果たしています。競技スポーツ以外でもクラシックバレエのダンサーやシルク・ドゥ・ソレイユも担当していました。

こうした背景をお持ちの内山先生である。次項では、その長く中身の濃い経験をもとに、ACL 再建術について、ご自身のデータを含め、詳細に語っていただくことにしよう。

■稲波脊椎・関節病院

所在地：〒140-0002

東京都品川区東品川3-17-5

TEL：03-3450-1773

FAX：03-6433-2738

<http://www.iwai.com/inami-sekitsui/>

最寄り駅：りんかい線「品川シーサイド」駅、京急線「青物横丁」駅、東京モノレール「天王洲アイル」駅、JR「品川」駅。道順などは上記 HP 参照。

今年7月オープンした岩井グループの新病院。院長の稲波弘彦先生は脊椎が専門で、切開が小さく身体に負担の少ない、入院期間の短い低侵襲手術を重視、椎間板ヘルニアと腰部脊柱管狭窄症の手術は岩井グループとして7,000件以上の実績。

内山先生は、副院長として就任、おもに ACL 損傷への再建術を中心に診療を行う。アスリートのみならず、社会人の早期職場復帰（入院中のパソコン作業可能環境あり）にも貢献したいという。



稲波脊椎・関節病院 院玄関



真新しい手術室と内山先生